

海という名の本屋が消えた（79）

平野義昌

ブラジル移民(4)

メリケンパークに「移民乗船記念碑」(写真)が立っている。2001年4月に完成した菊川晋久(のぶひさ、1932年～)の彫刻、家族がブラジルに旅立つ姿である。神戸市が2008年のブラジル移民船神戸港出港100周年記念を目指した海外移住者・海外日系人顕彰事業の一つ。旧移住センター保存と移住者が歩いた道路(鯉川筋)の整備も進められた。

石川達三が移民船に同乗して書いた文章は移民政策や収容所に対して批判的である。だが、移民渡航者のことは悲哀と共にたくましさも描いている。彼らは厳しく暗い時代を何とか生き抜こうとする。渡航費補助受給のため姉を偽装結婚させる弟、トラホームの不安を抱えた父親、栄養失調の赤ん坊がいる大家族など、多くが故郷で食い詰めた人たちだ。ブラジルで一旗あげようという人は少数だ。

移民たちは1週間の収容所生活を終え、出発する。〈こうして移民収容所はガラあきになる。所員の掃除が始まる。清潔になって各室に錠が下される。窓がすっかり閉まる。廉売店が閑になる。しかしもの十日も経てば、再びこの全部の窓は新しく移民一千名に依って開かれるのだ。ああ神戸市の一面に厳然として存する、かの候鳥の電線にも似た移民の集合地、ブラジル・ラッシュの本源地、日本からの追放者のホーム。――この黄色い大きなビルディングこそは実に国家組織の不備を物語り、国家の無力を物語る国辱的建築物ではなからうか。〉^{註1}

石川が描写した神戸港。〈第二突堤は風である。颯々として春浅き風が吹いている。〉^{註1}
〈第三突堤は風である。飄々と吹く浅春の風である。〉^{註2}

石川の書き間違いか、記憶の混乱か、出発場面が「第二突堤」から「第三突堤」になっている。これは当初東から「第一、第二」という呼称が西からに改められたため(註3)。港が東に拡張し、突堤が増えていくなかで呼び方が変わった。

船は大阪商船の「らぶらた丸」(補註1)。
〈この冷たい海風の中に黄色いマストを立てて、マストからマストへ万国旗のはためく上に、大阪商船の「大」の字の旗と黄と緑のブラジル共和国旗と、もう一つ青い色の出帆旗とが真横に吹かれている。〉^{註2}
青い旗は出帆の準備完了を示す国際信号旗である。突堤では飲み物や果物など「最下等品を中等の値段」(註1)で売っている。

乗船前、移民たちは旅券査定検査を受ける。水上警察署員から一人ずつ名を呼ばれ、一つ二つ質問される。旅券を受け取ると、そのまま移民会社員に預ける。

移民たちの船室は最下層、1室に180～200人、それが4室ある。

〈室と言うが、メン・デッキの下の船艙で、上下左右は鉄板張りで、両舷の丸窓が五つずつ。室の中央はもう一段下にある船艙の艙口(ハッチ)で、このハッチの蓋の上が移民達の食堂でもあり娯楽室でもあり喫煙室ともなる。〉^{註2}

移民たちは船の大きさに圧倒され幻惑される。彼らは荷物のように積み込まれるのだ。
〈……これから先の四十五日間をここで寝起きするのだという明確な認識が出て来ない。ふとそれ

を言い出す者があっても、収容所の食事と同じように、天皇陛下のお金で旅行することの有難さに気がついて直ぐに沈黙してしまう。〉^{註2}

午後3時過ぎ、一回目のドラが鳴る(『蒼氓』3時半、『南米往来記』3時15分)。移民たちは船艙からデッキに上がって行く。多数のテープがデッキと突堤をつなぐ。
〈突堤には見送りの小学生が三、四百人も整列していた。彼等は港にちかい学校の生徒たちで、移民船が出る度に交替で見送りに来るのであった。／子供達は大きな船が出て行くのを見る嬉しさに、移民の投げるテープを先を争って拾った。大抵の移民には親戚知己の見送りというものは殆んどないのだ。〉^{註2}

二回目のドラで見送り人・面会人は船から降ろされる(『南米往来記』に3時45分とある)。デッキは万歳の合唱。
〈楽隊が鳴り始めた。すると突堤にびっしりと並んだ小学生達が、今まで巻いていた小旗を一斉に開いた。日章旗であった。それを打ち振り楽隊に合せて歌い出した。

／行けや同胞海越えて／南の国やブラジルの……／未開の富を拓くべき／これぞ雄々しき開拓者……／
飄々となる海風の中を、歌声は美しい大きなどよめきとなって鉄の船腹を上って来る。すると移民たちは一斉に万歳を叫びだす。ただ無茶苦茶に叫びだす。〉^{註2}

1935(昭和10)年、小学5年生の陳舜臣(作家、1924～2015年)は移民船を見送った。
〈むかし移民船が神戸を出るとき、神戸区(現在の中央区の一部)の小学校六校の学童が、交替で見送りに行った。筆者もなにか神戸の突堤へ見送りに行ったものだ。団体で校外へ出るのは、小学生としてはのしいものだが、移民船送りだけは、なんとなく気が重かった。甲板にならんだ移民たちは、みんなハンカチを目にあてて、泣いていたのである。

われわれ見送りの学童は、プラス・バンドの伴奏で、声をかぎりに、壮行歌をうたった。
／行け行け同胞海越えて／遠く南米ブラジルへ／御国の光かがやかす／今日の船出ぞ勇ましき／万歳、万歳、万々歳！(後略)〉^{註4}

歌は「渡伯同胞送別の歌」という替え歌。原曲は「声援歌 訪欧大飛行」(補註2)。

作家・田宮虎彦(1911～1988年)は中学を退学した友のブラジル行きを見送った。
〈神戸市のどこかの小学校の生徒たちが、おそらくは神戸市か兵庫県かの指示でそういうことをしたのだろうが、二隻のランチにのって、港外まで移民船を見送ってゆく。その時、この歌をうたって日の丸の国旗をうちふるのだった。埠頭でも、この歌はうたわれていた。拡声機などのまだ普及していない頃で、神戸市の楽隊が、ブカブカとこの歌を奏していた。〉(後略)〉^{註5}

石川の文章に戻る。万歳合唱が続いている。
〈……(移民たちは)今まで明確に意識し得なかった自分の今しようとしていること、自分が殆んど永久に日本を去ろうとしていることが、あまりにはつきり(原文傍点)と知らされるのだ。すると、赤と黄と白のテープをしっかりと握りながら、この歌声を聞きながら、ほろほろと涙が流れて来る。子供たちは

あまりにも元氣よく歌をうたう。日章旗はあまりにも美しく翻る。テープの網はあまりにも目に痛い色彩だ。神戸港は風である。橋頭にはブラジルの旗がある。そしてほろほろと泣けて来るのだ。「何が何だか分からない」のだが、ただじつくと涙が湧く。〉^{註1}

石川は、一千人の食い外れを追い出して万歳とは何事、と怒る。
〈日本は、移民を出さぬことを考えねばならない。移民の多いことを以て誇ろうなどとはもつてのほかだ。移民を出さぬだけの用意、社会と国家の改良を、一刻も早く実行するがいい。〉^{註1}

三回目のドラ(『蒼氓』で午後4時)が鳴り、船は港を離れ、45日間の航海が始まる。紀淡海峡から四国沖に出て、香港、東南アジア各地、セイロン、南アフリカに寄港し、大西洋を横断してブラジル・サントスを目指す。

石川が『蒼氓』三部作(第二部「南海航路」航海中のこと、第三部「声無き民」ブラジル入植)を完成したのは1939(昭和14)年。単行本『蒼氓』(新潮社)として出版したが、やはり検閲による削除箇所がある(註6)。

石川は「声無き民」で新米移民たちの開拓生活序章を描いている。集落の先輩移民や外国人移民と交わり、世間的欲望を捨て、慎ましい生活に幸福を見出していく。

〈……こうして日がな一日紫赤土(テアラ・ロツシャ)にまみれての労働の中にも、他人にはわからない多くの幸福がある、むしろ意外なほど純粋な幸福、原始人のような幸福がありそうであった。〉^{註2}

註1 石川達三『最近南米往来記』中公文庫1981年
註2 石川達三『蒼氓』新潮文庫 1951年(76年46刷)
註3 山田勉生『船にみる日本人移民史 笠戸丸からクルーズ客船へ』中公新書 1998年
註4 陳舜臣『神戸ものがたり』平凡社ライブラリー 1981年
註5 田宮虎彦・小松益喜『神戸 我が幼き日の……』中外書房 1988年復刻版
註6 黒田公男『神戸移住センターから見た日本とブラジル』神戸新聞総合出版センター 2014年



補註1 1926(大正15)年建造。ブラジル移民船として神戸港から32回出航。戦争中は軍事輸送(「千珠丸」と改名)に従事。45(昭和20)年1月、ベトナム・サイゴン港で爆撃され沈没。
補註2 朝日新聞社が1925(大正14)年日本初の訪欧飛行を計画(フランス製飛行機2機、乗員4名)。新聞紙上で飛行機の名称と「声援歌」を公募。名称は「初風」「東風(こちかぜ)」に決まる。歌は「声援歌 訪欧大飛行」(山本三吉作詞、田村虎蔵作曲)、YouTubeで視聴可能だが、一部聴き取れない。1番の歌詞は「行け行け勇士 空高く 昇る朝日の 輝きや 世界のひとみ 今仰ぐ 銀の翼に 平和あれ」。2機の飛行機は同年7月25日東京代々木を出発。シベリアを横断し、モスクワ、ベルリン、パリ、ロンドン、ブリュッセルを経て、10月27日ローマに到着した。
替え歌の歌詞はブログ「ハチドリのブラジル・サンパウロ(時々日本)日記」2009.12.18に全文紹介あり。https://beijaflors.ex-blog.jp/
石川が『蒼氓』で書いた歌詞は4番。出だしは記憶違いのようだ。

出来事ファイル(No.20-6)

コロナウイルス便乗詐欺予兆電話に注意を！

休業中の店舗・事務所は防犯対策もお忘れなく

(兵庫県生田警察署 生活安全第一課)

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、政府は「緊急事態宣言」を発表、いろいろな経済対策を発表しています。緊急融資を受ける方法などを口実に、お金をだまし取ろうとする事件の発生が危惧されます。特に、一人暮らしの方がねらわれやすいので十分注意していただくようお願いします。

●予兆電話の例

- ①市役所職員を名乗り「コロナの検査費用として、お金が給付されます」「給付金を受け取るにはATMでの操作が必要」
- ②金融機関職員等を名乗り「無利子での融資や貸付を受けるには保証金が必要」「緊急事態宣言によりお手元のキャッシュカードが使えなくなるので交換が必要」というものです。

防止策

市(区)役所、年金事務所、金融機関などが、ATMの操作をお願いすることはありません。不審な電話があった時は、一人で判断せずに、家族や友人、警察に必ず相談してください。

●詐欺被害発生の例

兵庫県内の飲食店で「緊急特別貸付のご案内」FAXが届き、「コロナ対策のために低金利で支援している」という説明を信じ、融資を受けるための保証金として現金を振り込んでだまし取られた」という事件がありました。

防止策

- ①公的機関、金融機関などを名乗って、給付金、融資などの話があってもすぐに応じず、真正な団体等やその職員であるかなど、確認してください。
- ②公的機関等がATMの操作をお願いすることは絶対にありません。コロナウイルスに便乗した次のような不審電話に注意してください。
- ①感染した息子(孫)をかたった電話
- ②感染拡大に伴い「還付金手続きが3月まで延長した」との電話
- ③国からの給付金を振り込むとの電話やメール
- ④「ウイルス汚染のおそれがある」と水道管の清掃をうたった電話
- ⑤身に覚えのないマスク購入を仮装した不審メール

●休業中の店舗・事務所の防犯対策を。

緊急事態宣言発令により、臨時休業の店舗や事務所があります。出店荒しや事務所荒らしの防犯対策をお願いします。

◇防犯ポイント

- ①現金や高額な商品を店内に保管しないように。やむを得ず保管する場合は、防盜金庫など丈夫な金庫の活用を。
- ②出入口や窓は確実に施錠し、補助錠をつけて二重ロックに。
- ③侵入警報装置、防犯アラームなどの設置を。
- ④店舗内外や駐車場などへ防犯カメラやセンサーライトの設置を。

メール・ウェブサイトで安全・安心情報をお届け！！

兵庫県警察本部では、登録いただいた方に、犯罪情報や防犯情報などをメールでお知らせしています。「子どもへの声かけ」事件発生の場合は、次のようにお知らせします。

声かけ事案発生(○月○日・兵庫)

○月○日○時○分頃、神戸市○○の路上で声かけ事案が発生しました。徒歩で下校中の男子児童に対して、「お菓子を買ってあげるから一緒にいこう」と声をかけたもので、児童が断るといづれかに立ち去りました。声をかけたのは、○歳位、○センチ位、○色Tシャツ着用の男です。

チカン・わいせつ事件、ひったくり・路上強盗などについては、発生地点及び周辺の発生状況のほか、メールから犯罪発生マップを表示することも可能です。

登録はメールで可能ですが、方法その他、詳しくは兵庫県警察本部生活安全企画課 犯罪抑止対策室 078-341-7441まで。登録料は無料です。

